

# アートマネジメント論

選 択

開講年次：3 年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：芸術を通して、その価値や有用性を社会の中で広く展開するためのアートマネジメントの基礎を学ぶ。コンテンポラリーアートの表現の変容や歴史的系譜を理解して文脈を構想する。現代を照射する展覧会の企画やキュレーション、関連事業、実施、運営、記録、図録の資料化など、将来の芸術産業創出を見据えた実践方法や考え方を学び、美術館やギャラリーの活用のほかにも、パブリックアートやアートプロジェクトなどまちづくりの観点から、市民との協働や地域文化振興など、地域創造による脱アートスペースの可能性についても考える。

■**到達目標**：①芸術の意味や価値を考察し文脈を構想しながら社会的な展開を図り公開をする目的を理解する。  
②芸術文化をアートマネジメントの基礎力を養うことができる。  
③芸術産業創出による地域振興の課題に取り組む姿勢を育成する

■**担当教員**：

上遠野 敏

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 歴史的アートを概観し芸術の文脈を考察する1：自然神の現れと神々のお供え
- 第 2 回 歴史的アートを概観し芸術の文脈を考察する2：仏教の宇宙概念と慈悲のこころ
- 第 3 回 歴史的アートを概観し芸術の文脈を考察する3：極楽と地獄の絵巻ファンタジー
- 第 4 回 歴史的アートを概観し芸術の文脈を考察する4：元祖アニメーション絵巻、鎌倉のリアリズム
- 第 5 回 歴史的アートを概観し芸術の文脈を考察する5：物数寄と風流：北山文化と東山文化の御物、時間と空間を包含するやまと絵、こころを問う禅の造形：禅画・禅の庭
- 第 6 回 歴史的アートを概観し芸術の文脈を考察する6：総合芸術としての茶の湯：利休・織部・遠州
- 第 7 回 歴史的アートを概観し芸術の文脈を考察する7：江戸の意匠とポップカルチャー1：円空・木喰、琳派
- 第 8 回 歴史的アートを概観し芸術の文脈を考察する8：浮世絵、奇想の画家、白隠・仙崖、判じ物、現在の風俗
- 第 9 回 IBAエムシャープークの地域再生の実例に学ぶ
- 第10回 地域文化振興（社会との接点の開発）とマネジメントの実践例1
- 第11回 地域文化振興（社会との接点の開発）とマネジメントの実践例2
- 第12回 ドイツの美術、パブリックアート、デザイン、都市計画に学ぶ
- 第13回 国際展のねらいと動向
- 第14回 展覧会企画、文脈構成、展示計画の立案
- 第15回 展覧会企画を立案しプレスリリースを作成する

■**教科書**：作成資料を適宜配布する参考文献

■**参考文献**：授業ごとに適宜指示をする。

■**成績評価基準と方法**：授業毎の感想やレポート、展示企画などにより総合的に評価する（出席15%、感想15%、レポート20%、展覧会企画50%）

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎			レポートの内容	20
授業態度	○	○	○	毎回の授業感想の内容	15
発表					
課題・作品		◎	◎	展覧会企画の内容	50
出席	○	○	○	2/3以上の出席が必要 出席回数×1点	15
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：現代芸術論を履修することが望ましい。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：豊富な作品スライドや映像でアートマネジメントをわかり易く解説します。アートマネジメントで実際に社会貢献することを創出しましょう。